

水稻技術情報 NO-12

令和6年7月19日
J A 営農支援課

出穂期1日程度早く「あきたこまち」は8月2日頃

1. 水稻の生育状況(7月17日)現在

あきたこまちの生育は平年比で草丈107%、茎数102%、葉数+0.1葉、葉色102%となっております。生育はやや過剰の傾向にあり、あきたこまちなど倒伏が懸念される品種等は追肥の判断を慎重に行う必要があります。

あきたこまちの幼穂長から見た出穂期は、1日程度早い『8月2日頃』と思われます。また、本年いもち病については未だ見られておりませんが、葉色値の高い圃場が多いことから、発生状況を確認し裏面を参考に対策をしてください。

現在、乾燥が進んでいない圃場も多いと思われませんが、出穂時は圃場水分が必要であるため、圃場が乾燥した場合は出穂時に花水を入れるなど、土壌を乾燥し過ぎないように配慮し、以下を参考に今後の管理に努めてください。

水稻定点調査圃の生育状況(7月17日) ※平年値は最高値と最低値を除いた過去10年の平均

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	71.5	66.9	441	434	11.5	11.4	43.1	42.1
(慣行)	70.9		441		11.4		43.9	
(側条ペ-サ等)	71.8		442		11.5		42.6	
前年比	99 %		104 %		-0.1 葉		103 %	
平年比	107 %		102 %		0.1 葉		102 %	
たつこもち	68.8	67.9	405	425	11.6	11.4	46.1	44.5
きぬのはだ	65.7	61.5	531	506	12.0	12.0	42.2	39.6
ときめきもち	68.6	62.1	459	497	11.9	11.4	41.6	41.0
サキホコレ	71.8	69.0	483	478	11.7	11.5	41.3	38.2

2. 出穂期予想[17日現在](砂地圃場は3日程度早め)

品 種 名	幼穂長(mm) 葉耳間長(cm)		減数分裂盛期	出 穂 期 予 想	
	本年	平 年			
たつこもち	葉耳間長	-15~-3	7月18日	7月28日	7月29日
あきたこまち	幼穂長	2~20	7月22日	8月2日	8月3日
きぬのはだ		2~10	7月27日	8月7日	8月8日
ときめきもち		2~10	7月27日	8月7日	8月8日

《幼穂長と出穂前日数並びに低温に対する強弱》

幼 穂 長	葉耳間長	出 穂 前 日 数	低温に対する強弱
約 7 cm	— 10cm	13日(減数分裂始期)	最も弱い (17℃以下が予想される場合は深水湛水で保温に努める)
約 15 cm	± 0 cm	10日(減数分裂盛期)	

裏面につづく

3. 今後の技術対応

- 1) 倒伏対策 [長稈・葉色値が高い圃場] [畦廻りスポット処理可能]
過剰生育等により倒伏が心配される圃場はつぎの薬剤で対応してください。(各1成分)
(ロミカ粒剤) 出穂前25~10日 [散布量2~3kg/10a]
(あきたこまち：7月21日頃までが散布の目安)
(ビビフル粉剤DL) 出穂前10~5日 [散布量3~4kg/10a]
(あきたこまち：7月21日~7月26日頃が散布の目安)
(ビビフルフロアブル) 出穂前10~2日 [散布量1,000倍 100L/10a]
※ラジヘリ対応可 (あきたこまち：7月21日~7月29日頃が散布の目安)

2) 減数分裂期追肥

出穂後に穂首が伸長する品種(あきたこまち等)の追肥を行う場合は、各自圃場の生育量・葉色等を確認のうえ、葉色が低下している圃場を主体に追肥を実施してください。減数分裂期に草丈が長く(80cm以上)、葉色値が高い圃場(SPAD値で42以上)では、倒伏の危険性がありますので、追肥を控えてください。

3) 病害虫防除

①いもち病

中干し後も葉色値の高い圃場等では、葉いもち病の発生が懸念されます。穂首及び枝梗への感染を防ぐためにも、圃場内を確認し発生が見えた場合は、つぎの薬剤で早急に防除をしてください。

○未防除・初発生圃場

・コラトップ1キロ粒剤：[1kg/10a、穂いもち：出穂5日前まで]

○発生が多い圃場

※(いもち病・稲こうじ病 同時防除)

・ブラシンフロアブル：[500ml 1,000倍、水100ℓ /10a]

※(ラジヘリ対応)[8倍、800ml/10a、500ml/1本で50a散布]

・ビームエイトゾル (5L)

・ブラシンゾル (500ml)：(いもち病・稲こうじ病 同時防除)

②紋枯病

過剰生育の稲(特に畦畔廻等)については、今後の天候(高温)次第で発生が懸念されますので、心配される場合は、つぎの薬剤を散布し予防してください。

収穫45日前まで モンガリット1キロ粒剤・1成分[散布量1kg/10a]

※「紋枯病・稲こうじ病同時防除」：[3日間湛水状態を保つ]

③稲こうじ病

特に幼穂形成期~出穂期の低温・多湿条件で多く発生しますので、心配される場合は、つぎの薬剤を散布し予防してください。前年に発生した圃場については、発生率が高まりますので防除に努めてください。

出穂10日前まで (Zポルドー粉剤DL・1成分)[散布量3kg/10a]

出穂直後までが効果 (ブラシン粉剤DL：2成分)[散布量4kg/10a]

④斑点米カメムシ類

[あきたこまち 1回目散布時期出穂後10日頃：8月12日前後] (ウンカにも効果)

エクシード 各1成分

[粉剤：散布量3kg/10a]

[フロアブル：2,000倍で60ℓ/10a、無人ヘリ：16倍で0.8ℓ/10a]

キラップ 各1成分

[粉剤：散布量3kg/10a]

[フロアブル：2,000倍で60ℓ/10a、無人ヘリ：16倍で0.8ℓ/10a]

※「ばか苗病」の散見される圃場は、見つけしだい抜取りをよろしくお願いします。

※ 農薬の使用に当たっては使用法を確認し、環境に配慮した施用量等を心がけてください。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稻以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。